

都道府県別賞一等

生命保険の本当の意味

宮崎県 鵬翔中学校 二学年

相良 郁

「生命保険についてどう思う？」と保険会社に勤めている母に尋ねられたとき、私は黙ってしまいました。生命保険について全く知らなかったからです。「生命保険はお金がかかるとか面倒だと思っている人が多いと思うけど、私は生命保険ってお守りなんだと思う。」と母は続けました。

そんな母は十三年前、私の出産で給付金をもらいました。私を緊急帝王切開で産んだからです。帝王切開などは異常分娩と言われ、給付金が出るのだと教えてくれました。そのとき、母は保険会社から十日間の入院で合計十五万円ほど、国からは四十万円ほど一時金が支給されて入院費などを払い、最終的には手元にお金がいくら残ったと言います。さらに、その後の二回の通院でも給付金を受け取れたと言いました。給付金のおかげで手出しが少なかったから、安心して通院までできたのだそうです。私はその話を聞いて驚きました。私が帝王切開で生まれたことは知っていたけれど、私の誕生に生命保険が関わっていたことは初めて知ったからです。

母の話で印象的だったものは「保険で安心を買う」という言葉でした。「安心を買う」なんて、最初は不思議に感じました。でも、家族の誰かが病気や事故で働けなくなったとき、家族を支えられなくなってしまう、それを代わりに支えるのが保険だと聞いて、なるほどと思いました。私は今まで、家族が毎日ごはんを作ってくれて、学校に行かせてくれて、当たり前のように暮らしてきました。でも、その「当たり前」は親が元気に働いてくれているからこそ成り立っているんだということに、あらためて気づきました。もし、急にその状況が変わってしまったら……と想像しただけで、とても不安になります。その不安を少しでも減らすのが生命保険だと知って、保険は「家族への思いやり」なのだと思います。また、「保険は使わないで済むのが一番」という話も印象的でした。たしかに、事故や病気にならないのが一番。でも、万が一のときのために準備しておくことが、家族や自分を守ることになるんだと学びました。

将来、私も大人になったら、仕事をして、家族を持つかもしれません。そんなとき、どんなふうに大切な人を守るか、考えたことはありませんでした。でも、今回の話を聞いて、ただ一生懸命働くだけではなく、「何かあったときのために備える」ということも家族を思いやる行動の一つなんだと知りました。また、保険のような「目に見えにくいもの」を信じて準備することは、とても立派な

第63回中学生作文コンクール

考え方だと思いました。何が起きるかわからない未来に向けて、今できることをしておく。そういう考え方は、保険に限らず、いろいろなことに通じているような気がします。私にとつては、テスト前にコツコツ勉強をしておくことかなと思います。そう思うと、今の自分にもできることがたくさんあると気づきました。今は、保険について聞かれたら、保険は家族への思いやり、そして未来を守る力だと答えられます。私の中でイメージが大きく変わりました。これから先、私も少しずつ大人に近づいていきます。その中で、大切な人と出会い、守りたい人ができるかもしれません。そんなとき、教えたことを思い出して、「自分にできる備え」をして欲しいと母は最後に言いました。生命保険という言葉は、少し堅いかも知れませんが、でも、その中には、「思いやりの気持ち」がつまっていると知り、温かい気持ちになりました。これからの私の生き方に、生かしていきたいです。